

第 7 回松本市交通政策検討委員会(3/23)の振り返り

■議事

- (1) 第 6 回松本市交通政策検討委員会の振り返り
- (2) 今年度実施の各種調査結果について
- (3) 次期総合交通戦略策定に向けた検討について

(1) 第 6 回松本市交通政策検討委員会の振り返り

- ・ 資料配布のみ

(2) 今年度実施の各種調査結果について

【高瀬会長】

- ・ 過年度と比較して、総トリップ数は増えているのか、減っているのか。

【事務局】

- ・ 総トリップ数の比較までは行っていない。今後分析する。

【高瀬会長】

- ・ 75 歳以上の方に着目すると、運転免許保有率は低いが、自動車分担率は他の年代と変わっていない。運転免許を手放すと外出しなくなるということを示唆する結果か。

【事務局】

- ・ 75 歳以上の方は外出率が低下している。運転免許を持っていない方の外出率については今後分析する。

【森委員】

- ・ 代表交通手段分担率から鉄道の利用者数を算出することは可能か。

【事務局】

- ・ 可能である。

【森委員】

- ・ 「市内発集量ベース」とあるが、松本市内を発着するトリップのみを集計しているのか。長野から松本といった市域を跨ぐトリップは代表交通手段分担率の計算に含まれているか。

【事務局】

- ・ 市域を跨ぐ移動は、松本市内の移動を 1 としたとき、その半分として集計している。

【森委員】

- ・ 市域を跨いだ移動のみを別途集計することは可能か。鉄道やバスの場合は、域外への移動も重要であり、その分析が期待できる。

【事務局】

- ・ 市域を跨いだ移動のみの集計も可能である。

【益山委員】

- ・ 今回の調査から、自動車 1 台あたりの乗車人数を把握することは可能か。自家用車の通勤では、ほとんど 1 人で乗っていると想定される。郊外から市内に流入する車に対し、複数人でシェアする場合に何らかの特典を付けるなど、乗車人数データを活用した施策も考えられる。

【事務局】

- ・ 本調査では自動車 1 台あたりの乗車人数は調査していないが、例えば、道路交通センサスのように自動車 1 台あたりの乗車人数を調査している別調査もあり、それらを活用することも考えられる。

⇒ご意見も踏まえ、PT 調査データの分析を実施した。結果を【資料 4】にて、報告する。

(3) 次期総合交通戦略策定に向けた検討について

【高瀬会長】

- ・ 資料中に出てくる「中心市街地」と「都市中心拠点」の違いは何か。また、松本駅は中心市街地に含まれるか。

【事務局】

- ・ 「都市中心拠点」は立地適正化計画の都市機能誘導区域に相当し、松本駅・松本城・あがたの杜公園等を位置付けている。「中心市街地」はこれらを中心とするエリアを指しており、ほぼ同じエリアと捉えている。

【高瀬会長】

- ・ 「自家用車を使わなくても誰もが移動できる」環境について、どの範囲のエリアを想定しているか。郊外の住民についても、自宅から目的地まで自家用車に依存せず移動できる環境を目指すのか。あるいは郊外から中心部へのアクセスにはパーク＆ライドの活用を想定しているのか。

【事務局】

- ・ 現時点では内部で見解は統一されていないが、少なくとも居住誘導区域内についてはその水準を目指す必要があると考えている。エリアごとの状況を踏まえながら検討を進めていきたい。

【益山委員】

- ・ 路面電車（LRT）導入に関して、今回の総合交通戦略に盛り込むのか。将来の理想像を踏まえた計画策定にあたり、路面電車の整備に対する市の見解を確認したい。

【事務局】

- ・路面電車については、松本市として整備の結論が出ておらず位置づけが難しい。市の方針としては路面電車の整備を進める考えはない。

【益山委員】

- ・美ヶ原のロープウェイに関して、総合交通戦略に盛り込む予定はあるか。

【事務局】

- ・ロープウェイの位置づけは検討したい。

【二條委員】

- ・バックキャスト型の計画策定にあたり、踏み込んだ将来都市像が示されているが、実現に向けた財源は想定されているか。ぐるっとまつもとについても現状維持が困難な中、新たな財源確保は可能か。

【事務局】

- ・現時点で明確な財源は定まっていない。検討を進める中で補助金の活用なども見据えながら、財源確保を考慮したい。

【森委員】

- ・将来都市像の素案を決めるスケジュールおよびペルソナ分析の詳細を教えてください。

【事務局】

- ・7月までに将来予測・データ分析をもとに目標・施策の方向性を検討し、夏の委員会で将来都市像の素案を精度高く示した上で決定したい。その後は目標設定と必要な施策の検討を行う予定である。

【森委員】

- ・計画策定にあたり、検討するエリアを予め決めておくことが重要である。

【事務局】

- ・立地適正化計画の都市機能誘導区域・居住誘導区域を踏まえ、エリアの特徴を踏まえたメリハリのある移動環境整備を進めたい。

【森委員】

- ・リニア開通の影響など、確度の高い将来変化をどのように計画に盛り込んでいくか。広域交通の将来像は重要な論点と考える。

【事務局】

- ・広域交通整備は松本市にとって重要な施策であり、次期総合交通戦略策定にあたり、リニア開通の影響も検討したい。

【高瀬会長】

- ・バックキャスト型の考え方を採る以上、将来像を設定した上で目標や施策を検討していくには

相当の覚悟が求められる。例えば、LRT の整備なしに公共交通分担率を大きく高めることは難しい。目標設定の際に控えめな内容とするのではなく、ある程度踏み込んだ政策を検討してほしい。

【事務局】

- ・いただいたご意見を踏まえ、次期総合交通戦略の策定に向けた検討を進める。

【益山委員】

- ・公共交通政策において大きな将来像を描くことは、現実との整合を図る上で難しい面もある。一方で、公共交通は市民生活や観光客の移動を支える重要な基盤であり、松本市の総合計画の中でも総合交通戦略は大きな位置を占めている。そのため、時には将来に向けた大きな夢を描くことも必要と考える。

【事務局】

- ・いただいたご意見を踏まえ、次期総合交通戦略の策定に向けた検討を進める。

以上。